

【2022年卒 就職活動TOPIC】 就職確定先に「相談できる人がいない」学生が4割 相談できる人の有無によって、就職確定先への認識に差

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘）のより良い就職・採用の在り方を追究するための研究機関・就職みらい研究所（所長：栗田 貴祥）は、就職みらい研究所学生調査モニターの大学生・大学院生を対象に「就職プロセス調査」を実施いたしました。このたび調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

相談できる人の有無で、入社に当たっての不安に15ポイント以上の差



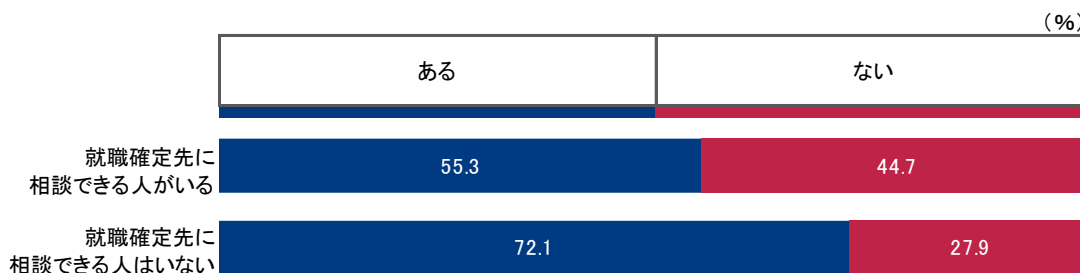
所長 栗田貴祥

今回は2022年卒学生の3月卒業時点での入社に当たっての不安などについて分析しました。その結果、就職確定先に相談できる人がいるか・いないかによって、不安の有無や、就職確定先への認識に差があることが分かりました。入社に当たって不安に感じていることがあるかどうかを聞くと、民間企業への就職確定者のうち約6割の学生が「ある」と回答。また、就職確定先に相談できる人がいるかについては、4割が「いない」と回答。不安に感じていることの有無については、就職確定先に相談できる人がいない学生の方が、不安に感じていることがあると

回答する割合が15ポイント以上高くなりました。また、相談できる人の有無別に就職先に対する認識を見ると、「確定している就職先のことを理解できている」「確定している就職先は、自分のことを理解してくれていると感じる」「もう一度就職活動をするとしても、今の就職予定先と同じ企業（団体）に就職したい」「現在確定している進路に納得している」の各項目において「あてはまる」や「非常にそう思う」と感じる学生の割合が相談できる人がいる学生の方が高いという結果になりました。企業は、選考中や内定承諾後も含め入社前までの期間において学生が相談しやすい環境を整えることで、相互理解を深め、学生の進路への納得感を高めることが期待できるでしょう。

入社に当たって不安に感じていることの有無

大学生_民間企業への就職確定者（就職志望者/単一回答）※大学院生除く



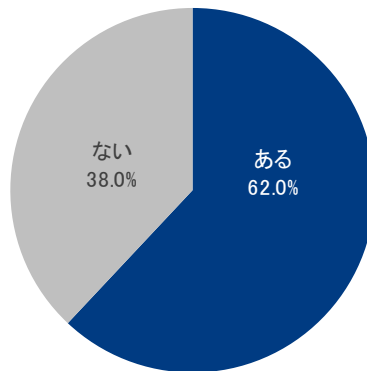
1.入社に当たって不安に感じていること

約6割の学生が「入社に当たって不安に感じていることがある」と回答

- ・民間企業への就職確定者のうち、約6割が「入社に当たって不安に感じていることがある」と回答。
- ・また、入社に当たって不安に感じていることを聞くと、「仕事の忙しさについて」「職場の人間関係について」が7割以上であった。

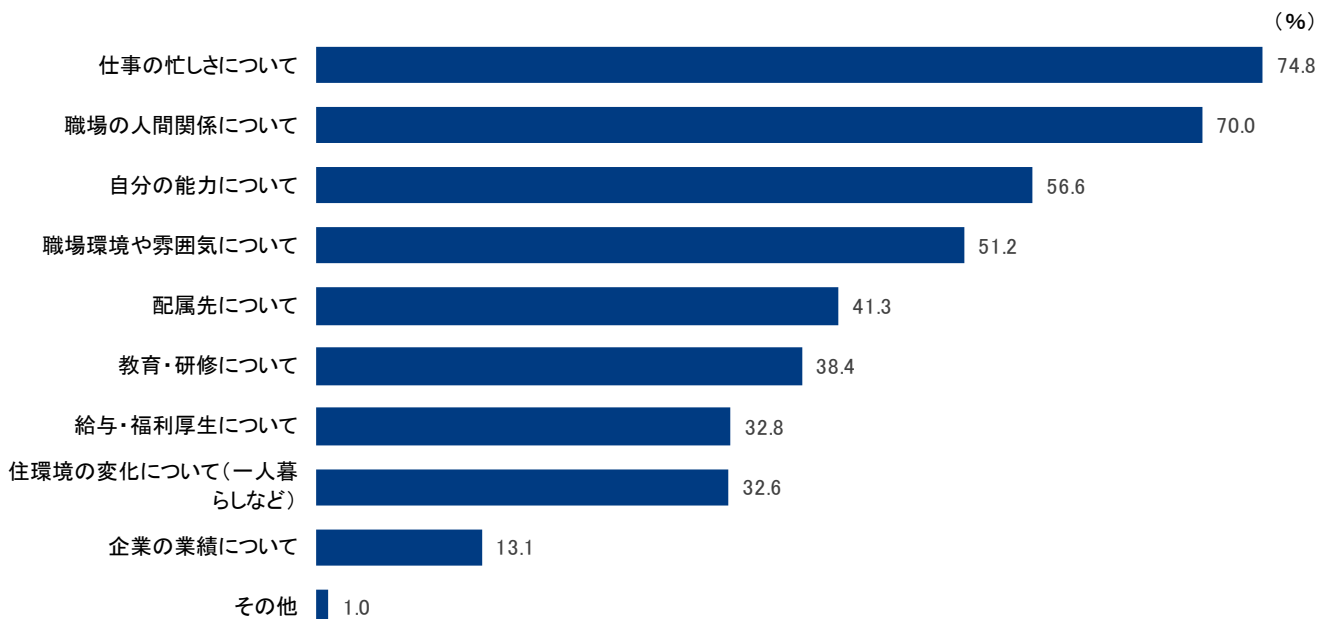
入社に当たって不安に感じていることの有無

大学生_民間企業への就職確定者（就職志望者/単一回答）※大学院生除く



入社に当たって不安に感じていること

大学生_民間企業への就職確定者（就職志望者・入社への不安がある/複数回答）※大学院生除く



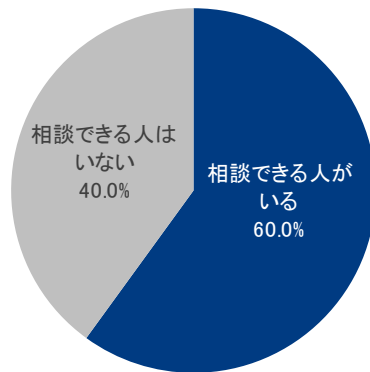
II.就職確定先に相談できる人がいるか

民間企業への就職確定者のうち、就職確定先に「相談できる人がいない」学生が4割

- ・民間企業への就職確定者のうち、4割が就職確定先に「相談できる人はいない」と回答。

就職確定先に相談できる人がいるか

大学生_民間企業への就職確定者（就職志望者/単一回答）※大学院生除く



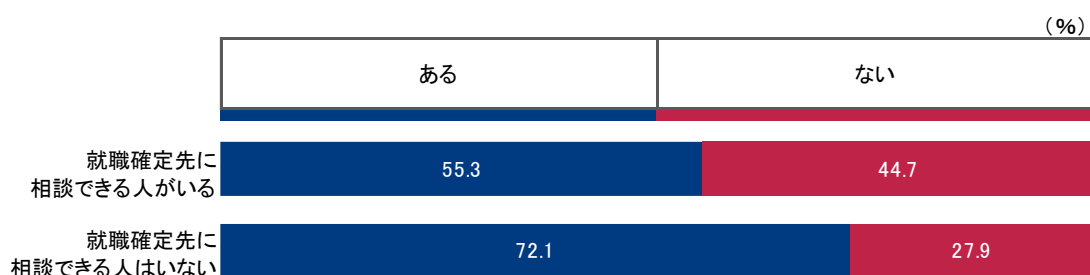
III.相談できる人の有無別、入社に当たって不安に感じていること

「相談できる人がいない」学生のうち、約7割が入社にあたり不安を感じている

- ・不安があると回答した学生の割合は、「就職確定先に相談できる人がいる」と回答した学生の55.3%に対し、「就職確定先に相談できる人はいない」と回答した学生は72.1%で、15ポイント以上の差。
- ・不安に感じていることの内容は、「就職確定先に相談できる人はいない」と回答した学生が、より多くの項目について不安に感じていると回答。

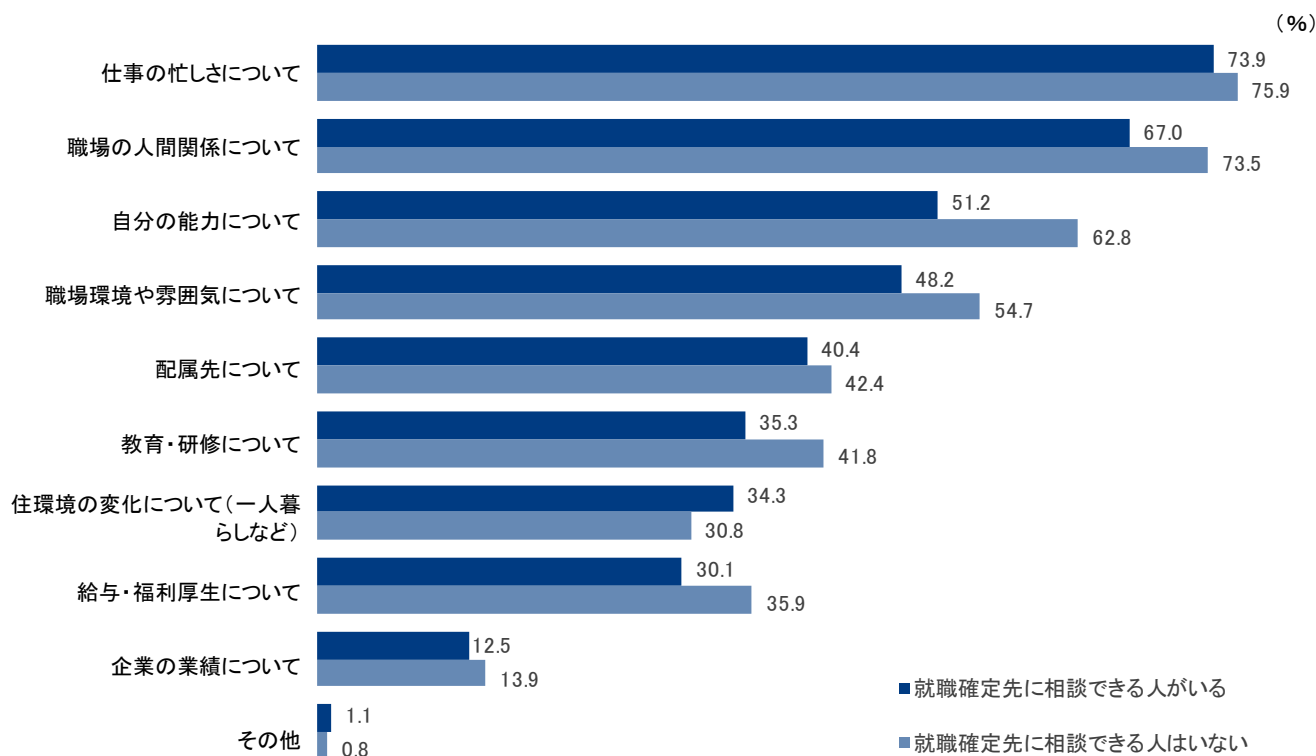
入社に当たって不安に感じていることの有無

大学生_民間企業への就職確定者（就職志望者/単一回答）※大学院生除く



入社に当たって不安に感じていること

大学生_民間企業への就職確定者（就職志望者・入社への不安がある/複数回答）※大学院生除く



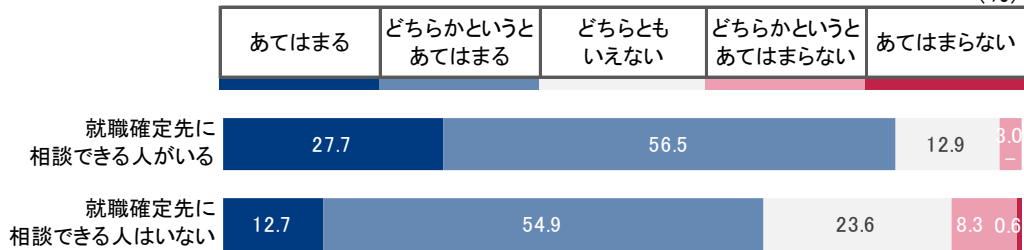
IV. 就職確定先に対する認識

相談できる人の有無により、就職確定先に対する認識に差

・就職確定先に対する認識を、相談できる人の有無別に見ると、「確定している就職先のことを理解できている」「確定している就職先は、自分のことを理解してくれていると感じる」「もう一度就職活動をするとしても、今の就職予定先と同じ企業（団体）に就職したい」「現在確定している進路に納得している」に対して「あてはまる」や「非常にそう思う」と回答した学生の割合は、「相談できる人がいる」学生の方が高い。

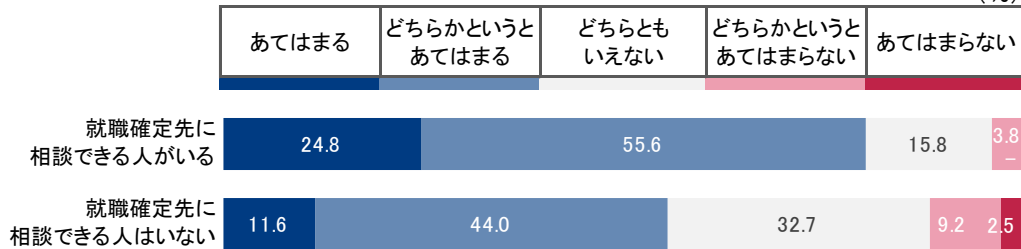
確定している就職先のことを理解できている

大学生_民間企業への就職確定者（就職志望者/単一回答）※大学院生除く (%)



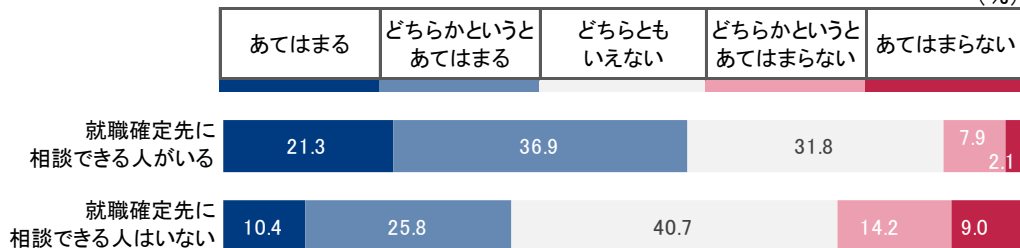
確定している就職先は、自分のことを理解してくれていると感じる

大学生_民間企業への就職確定者（就職志望者/単一回答）※大学院生除く (%)



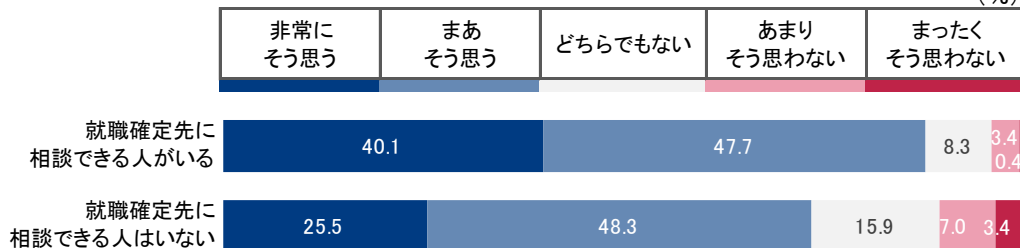
もう一度就職活動をするとしても、今の就職予定先と同じ企業（団体）に就職したい

大学生_民間企業への就職確定者（就職志望者/単一回答）※大学院生除く (%)



現在確定している進路に納得している

大学生_民間企業への就職確定者（就職志望者/単一回答）※大学院生除く (%)



調査概要

調査目的 | 大学生・大学院生における就職活動の実態を把握する

調査方法 | インターネット調査

集計方法 | 大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体を基に、実際の母集団の構成比に近づけるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

2022年卒：2022年3月度（卒業時点）

調査対象 | 2022年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2022』（※）にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生8,717人（内訳：大学生7,246人/大学院生1,471人）

調査期間 | 2022年3月11日～3月14日

集計対象 | 大学生 1,212人/大学院生 377人

※リクナビ：株式会社リクルートが運営している、就職活動を支援するサイト
<https://job.rikunabi.com/2022/>

モニターの抽出条件

「卒業後の志望進路（志望する進路の全て）」の回答状況を基に、次の条件で対象を抽出

本調査対象 = 「就職意向者（就職志望者 + 志望進路未決定者）」（※モニター募集時）

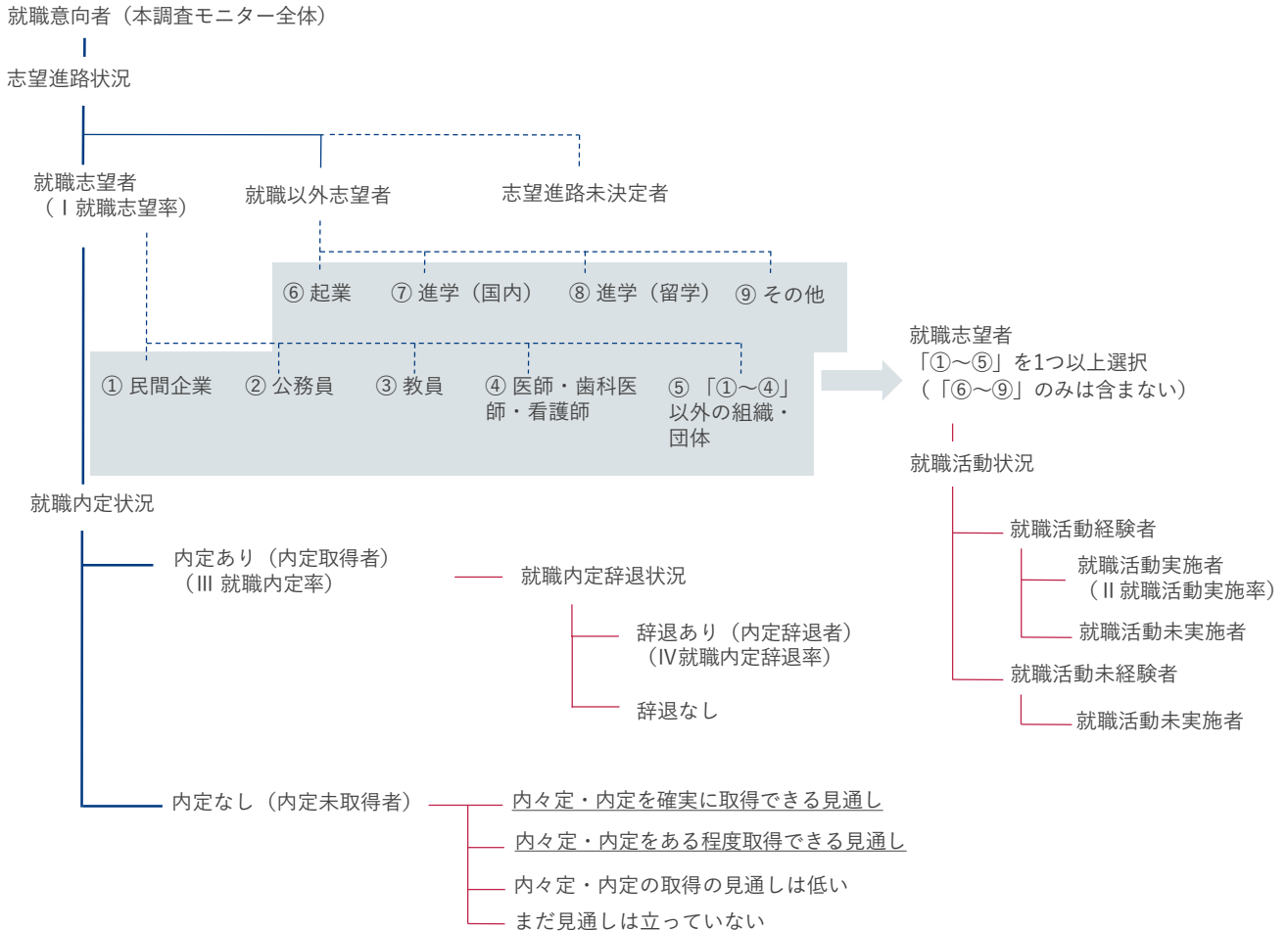
本調査対象については、以下を除いた

- 就職志望者のうち「②公務員」「③教員」「④医師・歯科医師・看護師」のみ選択した者
- 就職以外「⑥起業」「⑦進学(国内)」「⑧進学(留学)」「⑨その他」のみ選択した者

調査結果を見る際の注意点

- 「内定率」は内定・内々定を含む。政府の要請における正式な内定日は10月1日以降である
- %を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合がある
- 「前回差」「前年同月差」の単位は、「ポイント」
- 本資料での「前年」とは、「2021年卒」を示す

就職志望者から見た内定状況の構図



<各率の算出方法>

I 就職志望率	=	就職志望人数 ÷ 就職意向人数
II 就職活動実施率	=	就職活動実施人数 ÷ 就職志望人数
III 就職内定率	=	就職内定取得人数 ÷ 就職志望人数
IV 就職内定辞退率	=	就職内定辞退人数 ÷ 就職内定取得人数

<用語の定義>

● 就職意向者	=	当初 (本調査モニター募集時) の志望進路が「就職」および「未決定」者
● 就職志望者	=	当月、就職を志望している者
● 就職活動実施者	=	当月、就職活動を実施している者 (※)
● 就職活動経験者	=	当月までに就職活動の経験がある者
● 就職内定取得者	=	当月までに内定 (内々定) の取得経験がある者
● 就職内定未取得者	=	当月までに内定 (内々定) の取得経験がない者
● 進路確定者	=	当月、進路が確定している者
		進路確定率 = 進路確定人数 ÷ 就職意向人数
● 就職内定辞退者	=	当月までに内定 (内々定) の辞退経験がある者

<<地域区分の内訳>>

○ 関東	=	東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県
○ 中部	=	静岡県、愛知県、岐阜県、山梨県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県
○ 近畿	=	京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、滋賀県
○ その他地域	=	「関東」「中部」「近畿」以外の地域

※就職活動実施状況について、「している」「していない」の選択肢のうち、「している」と回答した者